

龍泉寺の龍の口



龍の口

龍泉寺は約1300年前、大峯山の開祖、役行者によって、草創された。全国修験道の根本道場として信者・登山者が訪れる。龍の口には、清水が湧出し、修験者は、入峯の前にここで水行を行って身を清める。



吉野郡天川村の龍泉寺。その境内の龍の口という泉に伝わるお話。

昔、龍泉寺で修行しながら寺で働く男が、村はずれの小屋に一人で住んでいた。ある日、小屋に帰ると、若い女が立っていて、「ひと晩泊めてください」といった。親切な男は、女に粥を与え、ゆつくりと休ませた。

次の日、女は男より早く起き、朝飯の支度をしていた。次の日も、その次の日も、やがて二人は夫婦になり、かわいい男の子も生まれた。

男がいつもより早く帰った時、女は困った様子で「子供にお乳を飲ませた

り、添い寝をする姿を見られるのが恥ずかしいので、帰ったよ、と声をかけてください」と男に頼んだ。

ところが、ある日、男が黙って小屋に入った。すると、何と、大きな白い蛇が赤ちゃんに添い寝しているではないか。「実は、私は龍泉寺の龍の口に住む蛇です。私の正体を見られたからには、もう夫婦でいられません。お寺の泉に帰ります。子供が泣いたら、これをなめさせてください」と自分の目玉をくりぬき、小屋を出て行った。

子供はその目玉をなめてすくすくと育ったが、とうとうなめ尽くし、またお腹をすかせて泣いた。すると龍泉寺の龍の口から白い蛇が現れ、もう片方の目玉を子供に与えた。「私は、両目ともなくなりました。どうか、朝と夕に

お寺の鐘を鳴らしてください。その音を聞いて、二人のことを思い出します」といい、泉の中に消えた。男は、その後、朝夕、龍泉寺の鐘を鳴らし続けたそうだ。

※

と、ここまで物語を辿ってきて、「あれつ」と気づかれた方も少なくないと思う。そう、琵琶湖の南にある有名な三井寺にも、よく似た話が「三井の晩鐘」として伝わっている。

琵琶湖の龍神の化身である女が、わが子に目玉を与えて盲目となり、琵琶湖に消える時、「鐘の音で無事を知らせてください」と、男に頼む話。

天川村の龍泉寺の鐘も、湖南の三井寺の鐘も、子供を思う母の心を、今も哀しく響かせ続けている。



名水百選 ごろごろ水

洞川温泉一帯は、カルスト地形で、花崗岩と石灰岩の特異な地層からミネラル分を適度に含むおいしい水が湧く。環境省の名水百選に選ばれている。

物語の場所を訪れよう



「龍泉寺」へは…

- 【車の場合】 国道169号線(大淀町経由)・国道309号線で村内へ
- 【バスの場合】 近鉄吉野線下市口駅より奈良交通バス洞川温泉行き終点下車約500m (バスの便数が少ないのでご注意ください)
- ☎ 天川村総合案内所 ☎0747-63-0999